

職員の安全を確保する

保育園の「環境」と「勤務する職員全員」の安全確認（+リスクの認知）を実施する

正しい情報を得ながら、そして日々の記録を取りながら、最重要な実務として行うべきことは保育園の安全確認です。

全国各地の保育園ではそれぞれの地域の感染拡大の状況に応じながら保育園の運営・維持を行い、自治体との連携を図りながら、休園措置を取られている園もあるかと思えます。

画期的な治療薬もワクチンも存在していない現時点であっても確実に実施できる感染症を拡げないための対策は、人と接しないことしかありません。ウイルスは人の体内で増殖し、人によって運ばれ、人からの飛沫に含まれる形で放出されます。

(参考HP)

※山中伸弥による新型コロナウイルス情報発信

<https://www.covid19-yamanaka.com/index.html>

職員の安全を確保する

保育園の「環境」と「勤務する職員全員」の安全確認（+リスクの認知）を実施する

休園措置によって保育園に子どもがいない状態になれば、子どもや保護者との接触が減り、保育園職員の安全は高まります。そして、園児がいない状態であれば、通勤する必要もなく、テレワーク勤務の形で、最大に安全な状態を確保しながら多様な仕事をこなすことが出来るでしょう。

しかし、全国全ての保育園で休園措置がとられていることでもなく、また、政府や自治体からの要請もあって、医療職や行政職、食の生産・加工・流通・小売業、公共インフラ（電気・ガス・水道など）、公共交通機関、運輸・輸送・宅配などの生活の基盤に関わる業務の方々のために保育園の開園を継続している園も多いことでしょう。

緊急事態宣言下であっても開園せざるを得ない状況がある中で、私の立場から一律のことを伝えるのはとても難しい。

【野口提言】

その時の状況、気づき、判断、結果、その後の評価・検証などを随時記録する



記録と評価からの改善の積み重ね → 対応マニュアルの作成・改訂を実施する → 自治体・保護者と連携

感染拡大防止対策とともに職員のメンタルケアを

職員が体と心の疲労をため込まないように心がける

現在、保育園において子どもたちがいるときには目を離すことが出来ず、そして、帰宅した後の時間も、施設内消毒や清掃、翌日の準備などで毎日の目の前のことで精一杯になっておられる職員の皆さんも多いことと思います。

【体力・精神力の疲労】

そこで、施設長にお願いしたいことは、園内の職員の様子を観察して優しく声をかけながら、体力疲労のみならず、精神状態（疲労、怒り、落ち込み、無力感など）についても把握することに努め、可能な限り意見を聞いていくことをお願いいたします。そして、職員の様子や会話の内容などを日記のように記録を残しておくべきです。

【カウンセリング】 【休養・休暇の機会を探る】

また、保育職員の皆様も、緊張が続く毎日の中で、少しずつ心の中の本音の部分を口に出してみたり、言葉をメモとして残してみたりしながら、自分自身の心の状態の調整を意識してください。

【リフレッシュの機会】 【ストレス解消】

感染拡大防止対策とともに職員のメンタルケアを

急に始まったが急に終わることはない ～ 長距離マラソンのように安定してゴールを目指す

他の自然災害では最初の数日間が最も過酷であり、月日が経過するにつれて状況が改善していった心癒やされることも増えてくるのですが、今のところでは新型コロナウイルス感染症に対する恐怖から解放される様子は考えにくいところですので、京都大学の山中伸弥教授が話されているように、しばらく長く付き合わなければならないだろうという気持ちでもって、長距離マラソンが始まったという意識が適切なのでしょう。

私も大阪マラソンをフルマラソンで3回完走したことがあります。
42キロ先のゴールにたどり着くまでの道のりははじめは長く感じますが、
マラソン経験者であれば「ペースを乱さないこと」が最も重要であることを知っています。

この新型コロナウイルス感染症対策においても、報道される内容に一喜一憂するのではなく、
安定してゴールを目指す長距離ランナーのように、身体とこころの疲労を溜め込まないという
意識で対応していきましょう。

